

T.Rowe Price

ティー・ロウ・プライス 米国成長株式ファンド

追加型投信／海外／株式

ティー・ロウ・プライス 米国成長株式ファンド (毎月決算・予想分配金提示型) 愛称: **アメリカン・ロイヤルロード**

お申込みにあたっては、必ず投資信託説明書(交付目論見書)および目論見書補完書面等をご覧ください。

投資信託は預貯金と異なります。

ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動し、投資元本を割り込むことがあります。

ファンドの運用による損益はすべて投資者のみなさまに帰属します。したがって、投資者のみなさまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失が生じることがあります。



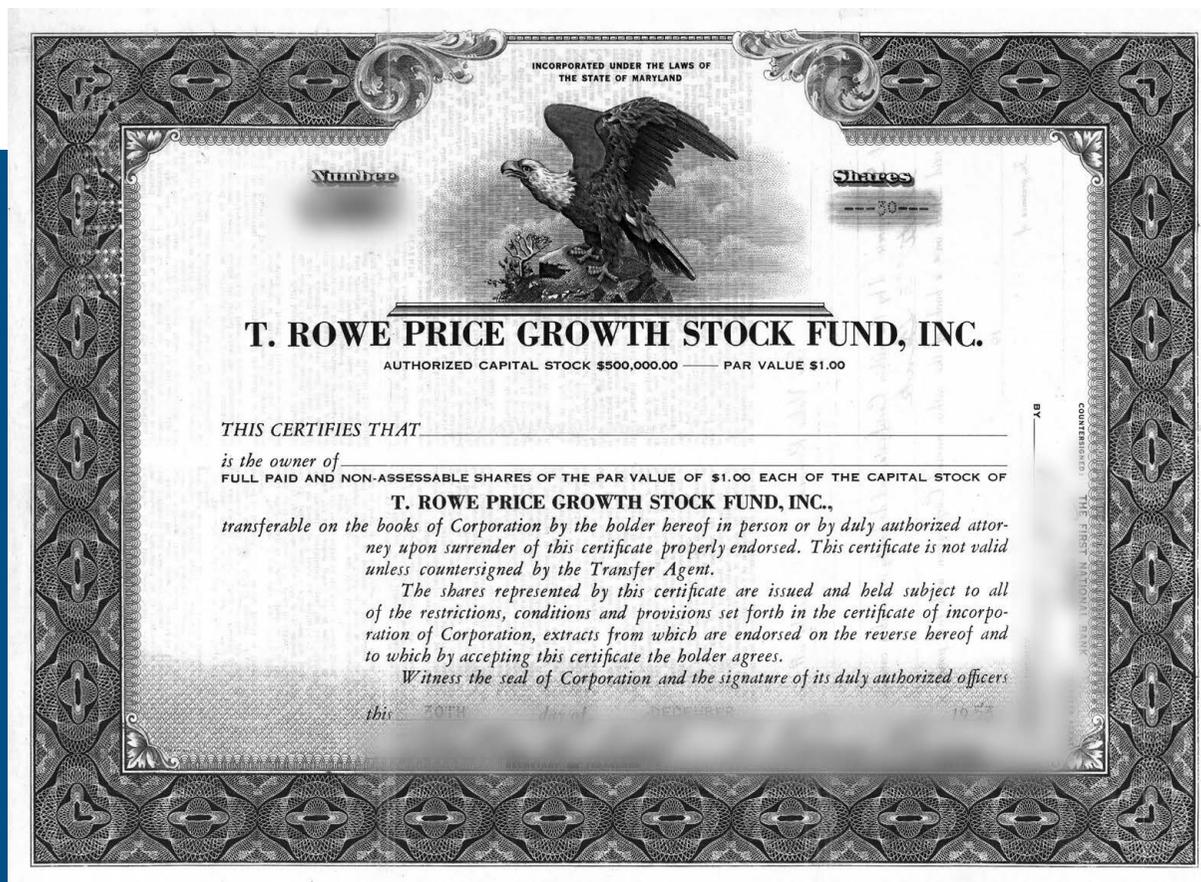
「自らの成功モデルで 個人投資家の助けになりたい」

創業者 トーマス・ロウ・プライス Jr.
(1898年～1983年)

ティー・ロウ・プライス社の創業者である、トーマス・ロウ・プライス Jr.は、
1930年代、人々が株式の値動きを見て売買を繰り返すなか、将来性のある成長企業に着目し、
流行に流されることなく長期にわたり保有することで大きな成功を収めました。

この成功モデルを個人投資家に届けたいという思いをもとに、1937年に資産運用会社を設立しました。

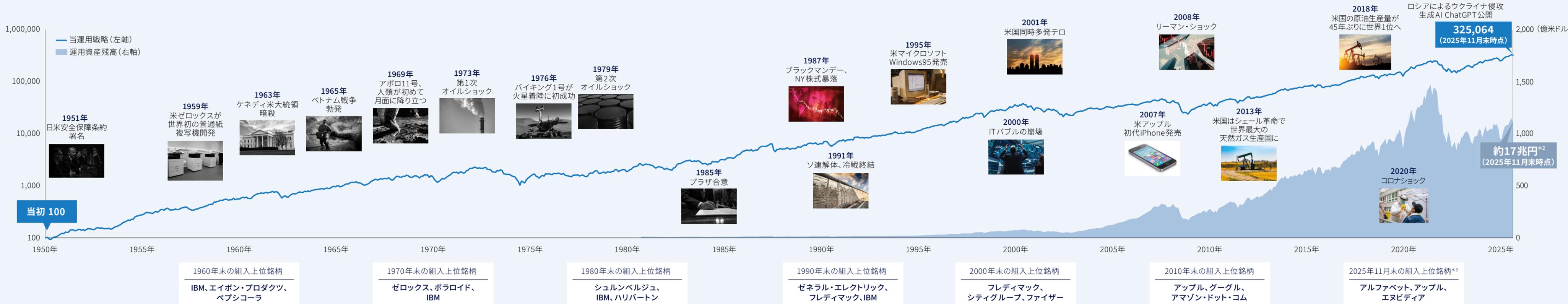
1950年、第一号ファンドを立ち上げ



「成長株投資の祖」と呼ばれるまで

1950年4月に立ち上げられた第一号ファンドは、1960年に10年間のパフォーマンスが全米No.1になり*1、トーマス・ロウ・プライス Jr.は、1972年にはフォーブス誌など米著名誌で「成長株投資の祖」と称されました。

当運用戦略を採用する第一号ファンドの設定来パフォーマンス(費用控除後、トータルリターン、米ドルベース)



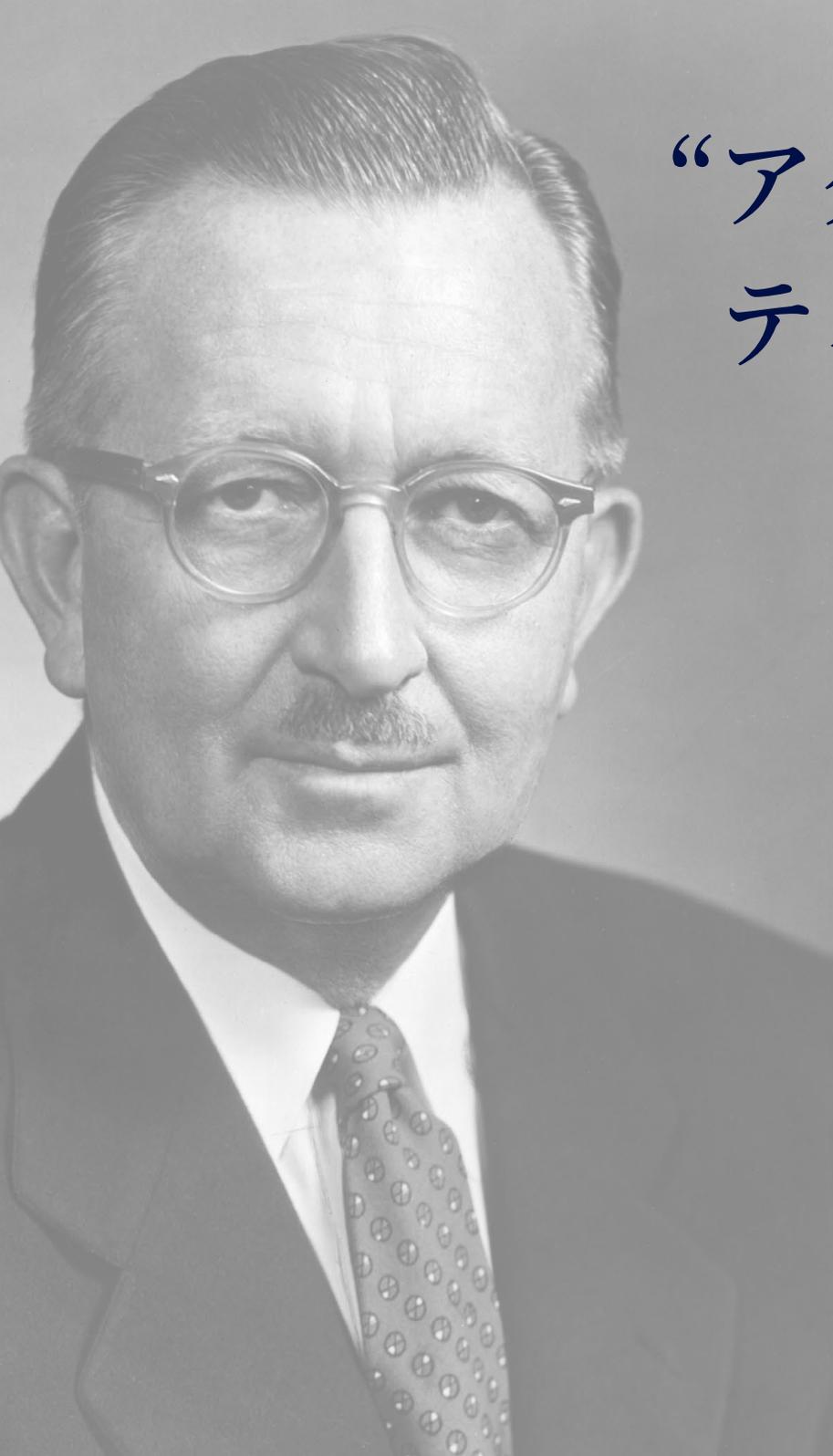
上記は、当ファンドが実質的に採用する運用戦略で運用されているコンポジット、あるいは当該コンポジットを構成する代表口座・ファンドのものであり、当ファンドのものではありません。

・当資料では、「ティール・ロウ・プライス 米国成長株式ファンド」および「ティール・ロウ・プライス 米国成長株式ファンド(毎月決算・予想分配金提示型)」を総称して当ファンドといたします。また、当ファンドが実質的に採用する運用戦略を当運用戦略といたします。
 パフォーマンスの期間:1950年4月末(設定日)~2025年9月末(月次) 1950年4月末=100として指数化
 運用資産残高の期間:1980年12月末(コンポジット計測開始日)~2025年9月末(月次)
 ・当運用戦略のパフォーマンスは、米国籍ファンドのリターン(費用控除後、トータルリターン、米ドルベース)を使用しています。長期間では各データの値が大きいかい離してくるため、期間を通して値動きの傾向が分かりやすいように対数グラフで表示しています。左軸の目盛りにご注意ください。
 ・当運用戦略の運用資産残高は、1995年12月末以前は米国籍ファンドの運用資産残高、1996年1月末以降は当運用戦略全体の運用資産残高です。

「成長企業への長期投資こそ投資の王道」

12代にわたり運用責任者が創業者の投資哲学を脈々と引き継ぎ、今では当運用戦略全体で約17兆円*2の運用資産をお預かりし、広く投資家から支持を得ています。

*1 ワイゼンバーガー社が1960年に発表した過去10年間の米国籍ミューチュアル・ファンドの運用成績の統計によるものです。ミューチュアル・ファンドとは、米国におけるオープン・エンド型の投資信託のことをいいます。
 *2 1米ドル=156.050円(2025年11月末時点)で換算。
 *3 「ティール・ロウ・プライス 米国成長株式マザーファンド」のデータです。
 ・上記は説明のために銘柄の一例をご紹介しますものです。したがって、個別銘柄・企業の推奨を目的とするものではなく、当社ファンドにおいて上記銘柄の組み入れまたは売却を示唆・保証するものではありません。上記で引用した企業名は、当時の名称または略称です。
 ・写真はイメージです。
 ・上記は過去の実績・状況であり、将来の投資成果等を示唆・保証するものではありません。

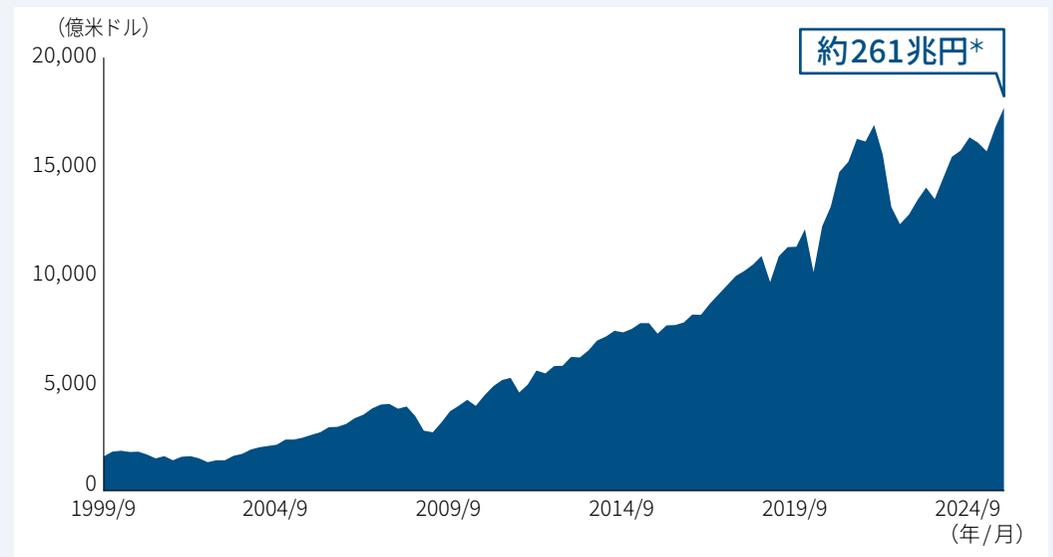


“アクティブ運用の雄” ティー・ロウ・プライス

信頼

85年以上続く、
一貫した顧客第一の経営理念
顧客の信頼から積み上がった
約261兆円*の運用資産残高

運用資産残高の推移



期間：1999年9月末～2025年9月末(四半期)。

* 1米ドル=147.685円(2025年9月末時点)で換算。

・グループ全体の運用資産残高には、ティー・ロウ・プライス・アソシエイツ・インク及び関連投資顧問による運用資産残高を含みます。

・上記は過去の実績・状況であり、将来の投資成果等を示唆・保証するものではありません。

実績

運用実績を支える強固なりサーチ・運用体制



代々受け継がれる
成長株投資の神髄

X



世界各地に配置される
運用プロフェッショナル*1

X



「競争」ではなく、
「協働」による多面的な分析

経営陣との関係性とアクティブ運用の雄としての立場を活用し
カリスマ経営者から直接情報収集

外部評価会社からの評価・ランキング*6



エヌビディア



ビザ



インテュイティブ・サージカル

順位(比率)*2

第4位(1.8%)

第3位(2.6%)

第1位(3.6%)

保有金額*3

約11.7兆円

約2.2兆円

約8,468億円

メディア:米Pensions & Investments*4

米国株式アクティブ
運用資産残高10年連続1位
米国大型グロス株式アクティブ
運用資産残高1位

メディア:米フォーチュン誌(2025年)*5

世界で最も称賛されている
企業ランキング
証券・資産運用部門 選出



出所:ファクトセット、Pensions & Investments、フォーチュンの開示情報やデータをもとにティール・ロウ・プライスが作成。 *1 2025年9月末時点。 *2 順位は2025年9月末時点の保有株式数をもとにした各企業の株主におけるティール・ロウ・プライスの順位(機関投資家の最終親会社ベース、パッシブ運用分除く)、比率は各企業の発行株式に占めるティール・ロウ・プライスのファンド等の保有比率を表示しています。 *3 ティール・ロウ・プライスの保有株式を1米ドル=147.685円で換算した金額(株価、保有株式数、為替レートは2025年9月末時点)。数値は取得時点で最新のデータを使用しています。 *4 Pensions & Investmentsによる年次調査に基づく、適格退職年金、基金、財団などの米国の非課税機関投資家向けの運用資産残高(外部委託を除く自家運用分、2024年末時点)。ティール・ロウ・プライスの運用資産残高は、ティール・ロウ・プライス・アソシエイツ・インクのみが集計対象です。 *5 著作権はフォーチュン社に帰属します。 *6 当該評価は過去の一定期間の実績を分析したものであり、将来の運用成果等を保証するものではありません。後記の「外部評価に関する補足説明について」を必ずお読みください。 *写真はイメージです。 *上記は説明のために銘柄の一例をご紹介しますものです。したがって、個別銘柄・企業の推奨を目的とするものではなく、当社ファンドにおいて上記銘柄の組み入れまたは売却を示唆・保証するものではありません。 *表示されている商標は、それぞれの所有者に帰属します。ティール・ロウ・プライスがこれらの商標の所有者を支持、後援、承認するものでも、提携するものでもありません。 *上記は過去の実績・状況であり、将来の投資成果等を示唆・保証するものではありません。

当運用戦略の魅力

1

創業者が立ち上げた 第一号旗艦戦略

創業者のトーマス・ロウ・プライス Jr.が、成長企業への投資の成功を個人投資家に提供したいという信念のもと、当運用戦略を1950年に立ち上げ

2

業界屈指のリサーチ力

創業者の投資哲学を受け継いだ世界中の運用プロフェッショナルの協働による強靱(きょうじん)なりサーチプラットフォームを活用

3

独自の視点から成長企業を厳選

経営陣や競争優位性などに着目し、独自の視点から、企業利益やキャッシュフローにおいて長期的な成長が期待できる企業の株式に投資

当運用戦略は、個別企業分析に基づく「ボトム・アップ・アプローチ」を重視し、主として米国の株式の中で、成長性が高いと判断される企業を中心に投資を行います。

ボトム・アップ・アプローチとは、アナリストの個別企業に対する調査や分析等に基づきその企業の投資価値を判断し、個別銘柄を選択する運用手法です。

米国成長株式運用戦略 運用責任者

ジェームズ・スティルワゴン
James Stillwagon



- ポートフォリオ・マネジャー
- 運用経験17年
- ティー・ロウ・プライス在籍8年
- 米国プリンストン大学にて経済学学士号を取得。
ファイ・ベータ・カッパ会員*

*卓越した学業成績をあげた学生が選出される。



徹底的な企業の調査・分析こそが
長期的な勝者を見極める鍵である。

2025年9月末時点

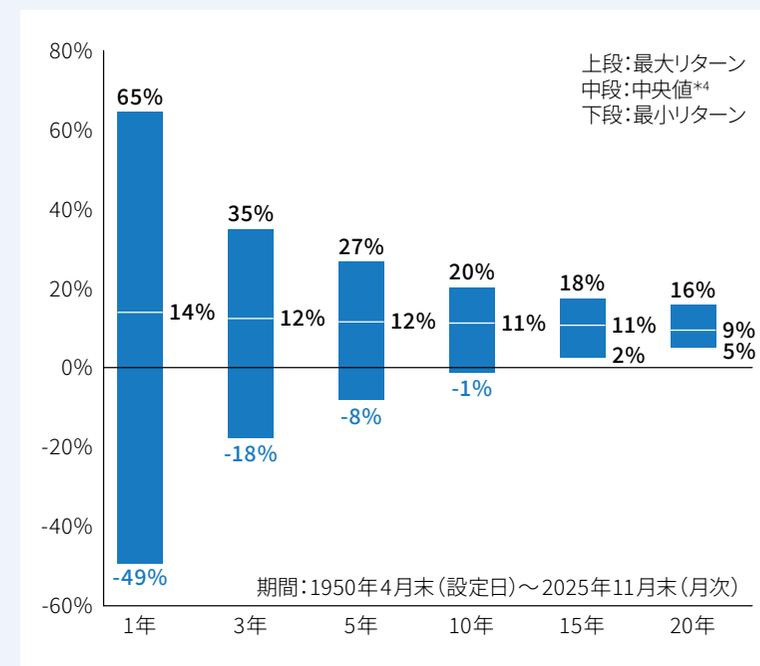
当運用戦略のパフォーマンス

- 当運用戦略の過去30年の実績は、米国株式や米国グロース株式と比較して良好な結果となっています(左図)。
- 投資期間別にみたパフォーマンスでも、長期になるほどリターン(年率)は安定的となり、15年以上投資した場合には、試算したすべてのケースでプラスリターンとなりました(右図)。

当運用戦略と米国株式のパフォーマンス(過去30年)



投資期間別にみたリターンの分布*3(年率)



上記は、当ファンドが実質的に採用する運用戦略で運用されているコンポジット、あるいは当該コンポジットを構成する代表口座・ファンドのものであり、当ファンドのものではありません。

出所:ファクトセットのデータをもとにティー・ロウ・プライスが作成。

・当運用戦略は米国籍ファンドのリターン(費用控除後、トータルリターン、米ドルベース)、米国株式はS&P500指数(トータルリターン、米ドルベース)、米国グロース株式はラッセル1000グロース指数(トータルリターン、米ドルベース)を使用しています。指数は市場推移の参考として記載しており、当ファンドのベンチマークではありません。

*1 リスクは月次リターンの標準偏差を年率換算したものであり、平均リターンからどの程度かい離するか、値動きの振れ幅の度合いを示しています。

*2 投資効率はリスクに対するリターンの大きさを示しています。値が大きいほど投資効率が良いとされます。

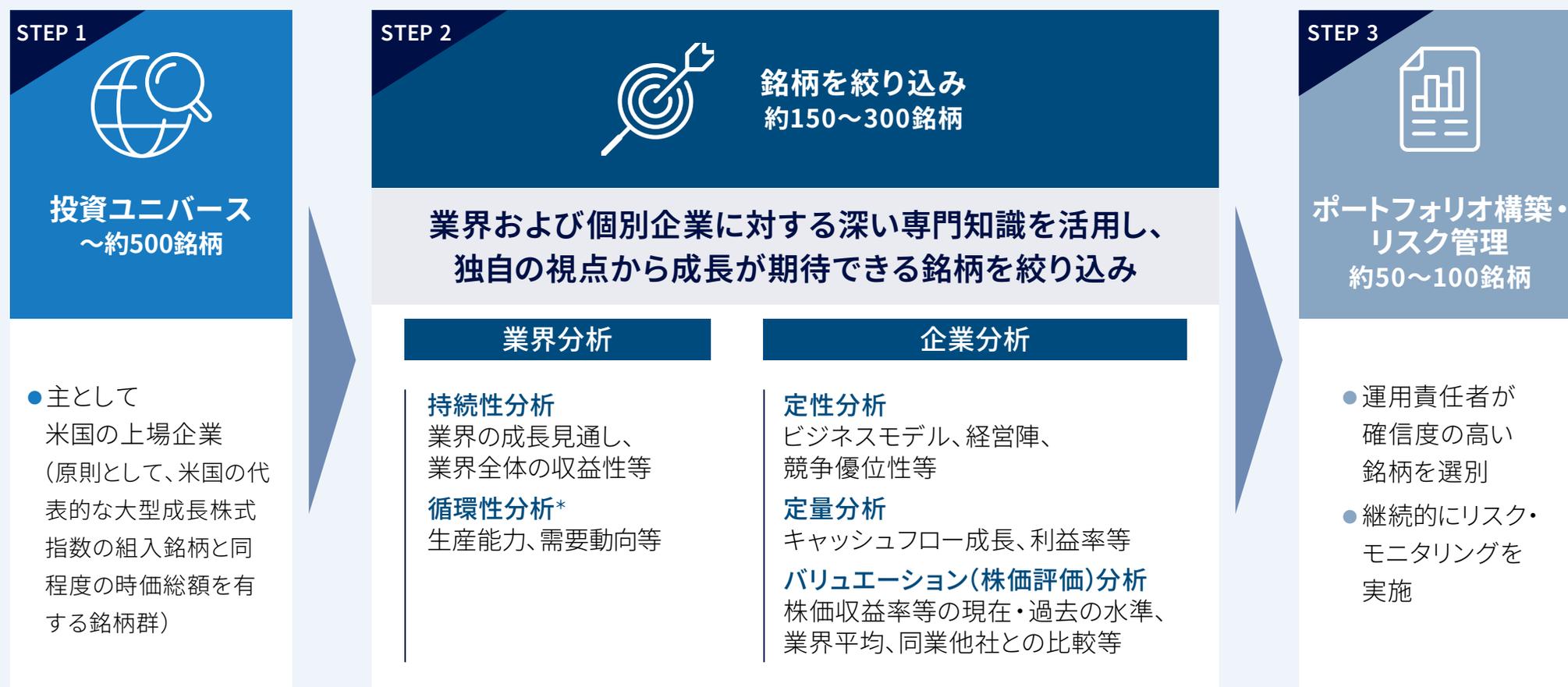
*3 当運用戦略の米国籍ファンドにおいて、期間中の各月末に投資を開始し、表記の期間保有した場合の最大リターン、最小リターン、中央値を表しています。

*4 中央値とは、データを大きい順(または小さい順)にならべたときに、中央に位置する値のことです。

・上記は過去の実績・状況であり、将来の投資成果等を示唆・保証するものではありません。

運用プロセス

当ファンドは、経営陣や競争優位性などに着目し、独自の視点から、企業利益やキャッシュフローにおいて長期的な成長が期待できる企業の株式に投資します。



2025年9月末時点

*循環性分析とは、調査対象の業界で生産能力や需要動向等について周期的に変動する特性があるかどうか分析することを指します。

上記の運用プロセスは、将来変更される場合があります。

調査・分析の着眼点

経営陣

戦略的なビジョンに基づいて各事業への資本配分を賢明に行うことが出来る実行力を有しているか、報酬体系が適切かなどを評価しています。



競争優位性

競争優位性を有する企業は、持続的に、他社と差別化された好業績を生み出す基盤を持つと考えています。

例えば、規模の経済を有しているか、競合製品・サービスへの乗り換えを困難にする独自性を有しているかなどに着目しています。



インサイト(洞察)

当社の広範囲かつ詳細な調査プラットフォームを活用し、市場が過小評価している投資機会を発掘します。

例えば、長期的に成長し続ける企業の更なる成長余地、業績を押し上げる要因、変革を推進する経営陣、企業価値向上につながるM&A戦略などに着目しています。



バリュエーション

ビジネスモデルの強靭性、業績予測の見通しやすさ、そして競争優位性・経営陣・インサイト(洞察)などを総合的に鑑み、バリュエーションが妥当な水準かどうか判断します。



2025年9月末時点
・写真はイメージです。
・上記は、当資料作成時点における視点を示しており、今後、市場環境の変動等により予告なく変更される場合があります。

エヌビディア (米国、情報技術)

生成AIの普及で成長を続ける大手半導体メーカー
AI・ゲームなどに必要不可欠な基幹半導体を提供



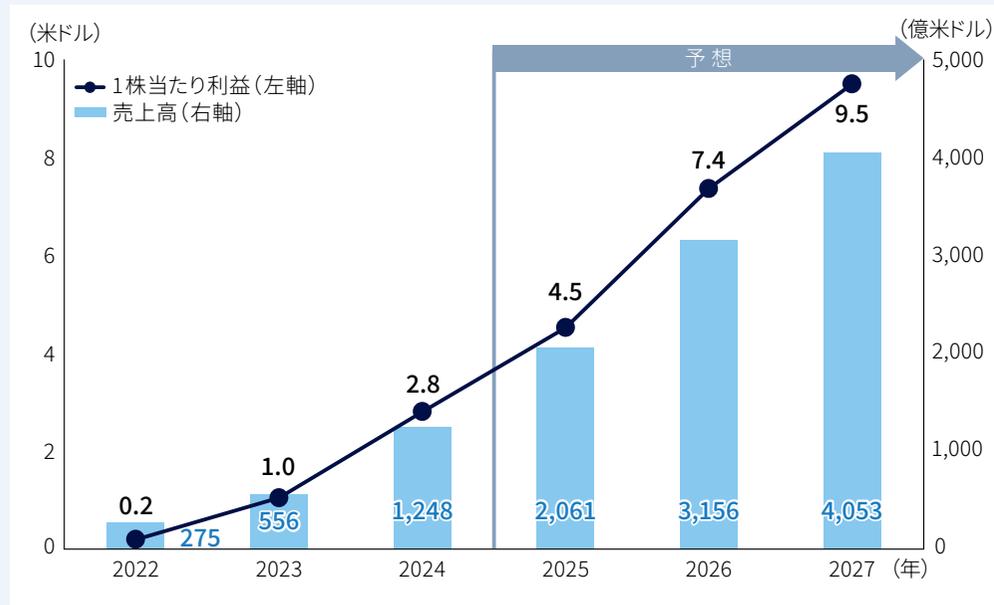
概要 ■ 主にコンピューターの3Dグラフィックスなどの画像を処理する半導体チップである、GPU(グラフィック・プロセッサ・ユニット)を設計・開発。同社のGPUはAI向けを中心に、データセンター、ゲーム、自動運転等に幅広く使用される。

着眼点* ■ GPUの設計・開発に加えて、それを軸としたエコシステム*²を構築しており、周辺ソフトウェアも含めた総合的なソリューションを提供。

■ 足元、生成AIの普及が進むなか、AIのインフラ構築に不可欠であるGPUの堅調な需要が見込まれる。同社は圧倒的な競争優位性を有しており、こうした市場環境のもと、持続的な成長が期待される。

*1 2025年11月末時点 *2 エコシステム:ビジネスにおいて企業同士が互いに協力し、それぞれの技術等の強みを生かしながら業務やサービスを補う構造。

1株当たり利益と売上高の推移



株価と組入比率の推移



出所: ファクトセットのデータ、各社ホームページなどをもとにティール・ロウ・プライスが作成。

【左図】期間:2022年~2027年(暦年ベース)。2025年以降はファクトセットが集計したアナリスト予想値(2025年12月17日時点)。

【右図】期間:2019年10月1日~2025年9月30日(株価は日次。組入比率は「ティール・ロウ・プライス 米国成長株式マザーファンド」の四半期ベースの数値)。

- ・上記は説明のために銘柄の一例をご紹介しますものですが、個別銘柄・企業の推奨を目的とするものではなく、当社ファンドにおいて上記銘柄の組み入れまたは売却を示唆・保証するものではありません。
- ・セクターは世界産業分類基準(GICS)を使用しています。GICSは年次更新され、報告は適宜更新内容を反映します。GICSの情報は後記の「世界産業分類基準(GICS)について」をご確認ください。
- ・上記は過去の実績・状況であり、将来の投資成果等を示唆・保証するものではありません。

マイクロソフト(米国、情報技術)

圧倒的なシェアを誇るソフトウェア製品やクラウド事業を軸にAIの開発・利用において業界を牽引



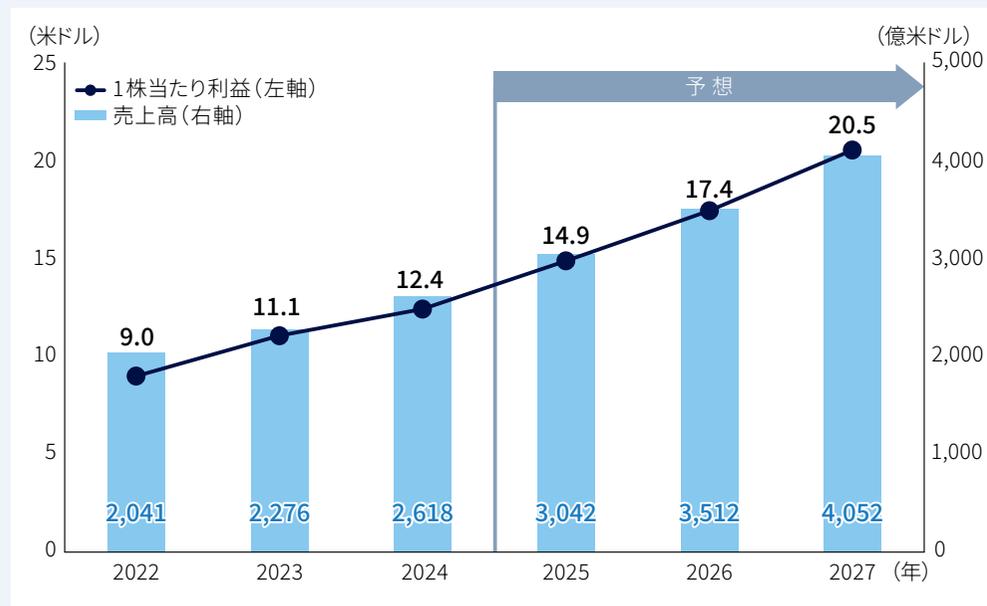
概要 ■ ソフトウェア、クラウド・コンピューティング・サービス、ハードウェアなどを多角的に展開するテクノロジー企業。

着眼点* ■ 圧倒的シェアを誇るPC向けOS「Windows」や企業向けソフトウェア「Microsoft 365」に加え、企業へクラウド環境を提供する「Azure」の堅調な成長などにより安定した収益基盤を有する。

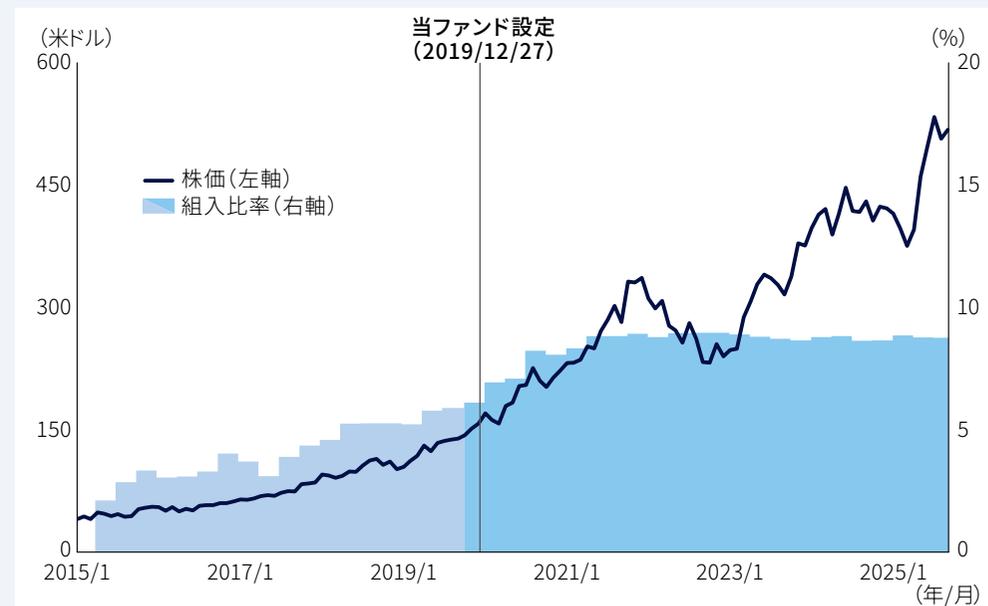
■ AIの開発・利用において業界を牽引。AI向けのデータ処理を行うクラウド事業などインフラ分野に設備投資を行うとともに、同社独自の生成AIを様々な自社製品に組み込むなど、アプリケーション分野でも付加価値を高めており、今後も持続的な成長が期待される。

* 2025年11月末時点

1株当たり利益と売上高の推移



株価と組入比率の推移



上記の一部は、当ファンドが実質的に採用する運用戦略で運用されているコンポジット、あるいは当該コンポジットを構成する代表口座・ファンドのものであり、当ファンドのものではありません。

出所:ファクトセットのデータ、各社ホームページなどをもとにティー・ロウ・プライスが作成。

【左図】期間:2022年~2027年(暦年ベース)。2025年以降はファクトセットが集計したアナリスト予想値(2025年12月17日時点)。

【右図】期間:2015年1月末~2025年9月末(株価は月次。組入比率は、2019年9月末までは当運用戦略の米国籍ファンド、以降は「ティー・ロウ・プライス 米国成長株式マザーファンド」の四半期ベースの数字)。

・上記は説明のために銘柄の一例をご紹介しますものです。したがって、個別銘柄・企業の推奨を目的とするものではなく、当社ファンドにおいて上記銘柄の組み入れまたは売却を示唆・保証するものではありません。

・セクターは世界産業分類基準(GICS)を使用しています。GICSは年次更新され、報告は適宜更新内容を反映します。GICSの情報は後記の「世界産業分類基準(GICS)について」をご確認ください。

・上記は過去の実績・状況であり、将来の投資成果等を示唆・保証するものではありません。

イーライリリー(米国、ヘルスケア)

糖尿病を中心にがんや免疫疾患等の治療薬に強み
重要性の高い医薬品ブランドや新薬パイプラインを複数保有

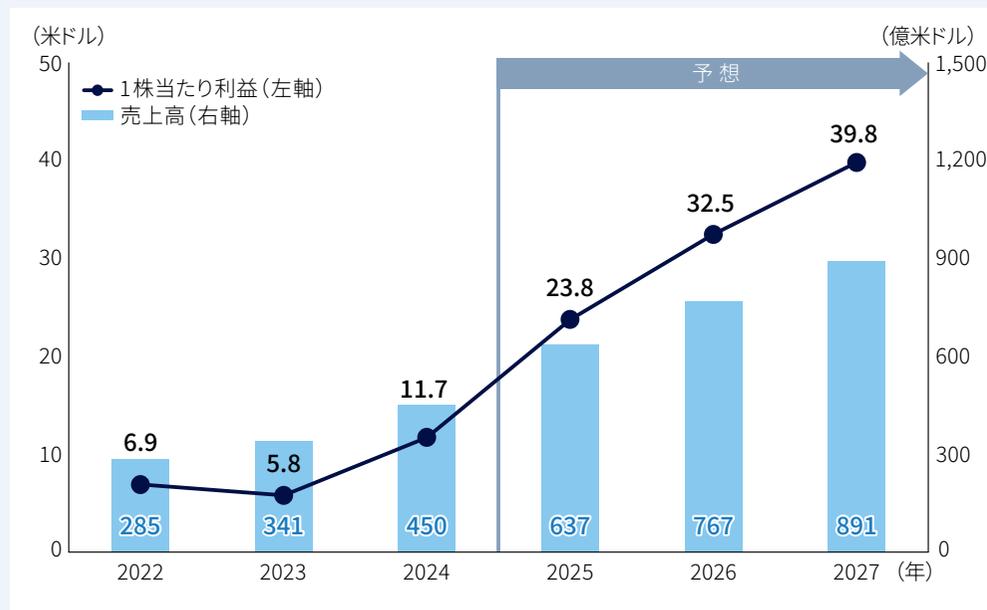


概要 ■ 糖尿病、がん、免疫疾患、神経疾患などの医薬品を開発、製造する大手製薬会社。1876年の創立から約150年にわたり「研究開発こそ企業の魂」という理念が浸透しており売上高の20%以上を研究開発費に充当(2024年実績)。

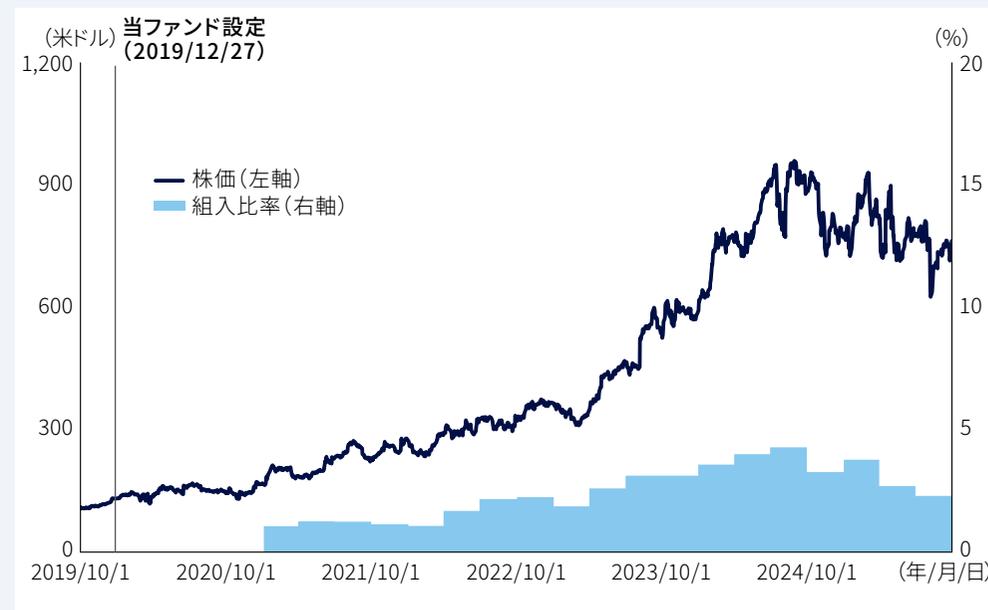
着眼点*1 ■ 有望な市場における重要性の高い医薬品ブランドや医薬品パイプライン*2を複数抱え、バイオ医薬品業界で高い競争優位性を有する。
■ 近年、米食品医薬品局(FDA)より承認された肥満症治療薬は、潜在市場規模が大きいことなどから同社業績の更なる成長が期待される。

*1 2025年11月末時点 *2 医薬品パイプライン:研究開発段階にある医薬品(新薬候補)。

1株当たり利益と売上高の推移



株価と組入比率の推移



出所: ファクトセットのデータ、各社ホームページなどをもとにティール・ロウ・プライスが作成。

【左図】期間:2022年~2027年(暦年ベース)。2025年以降はファクトセットが集計したアナリスト予想値(2025年12月17日時点)。

【右図】期間:2019年10月1日~2025年9月30日(株価は日次。組入比率は「ティール・ロウ・プライス 米国成長株式マザーファンド」の四半期ベースの数値)。

- ・上記は説明のために銘柄の一例をご紹介します。したがって、個別銘柄・企業の推奨を目的とするものではなく、当社ファンドにおいて上記銘柄の組み入れまたは売却を示唆・保証するものではありません。
- ・セクターは世界産業分類基準(GICS)を使用しています。GICSは年次更新され、報告は適宜更新内容を反映します。GICSの情報は後記の「世界産業分類基準(GICS)について」をご確認ください。
- ・上記は過去の実績・状況であり、将来の投資成果等を示唆・保証するものではありません。

ビザ(米国、金融)

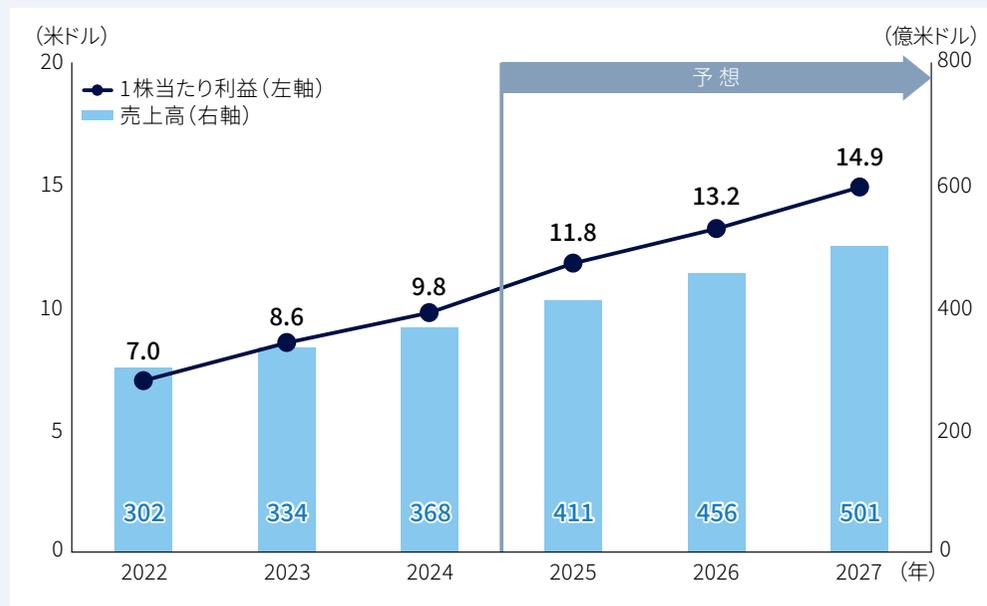
収益性の高いビジネスモデルと競争優位性を兼ね備えた世界有数のクレジットカードブランド会社



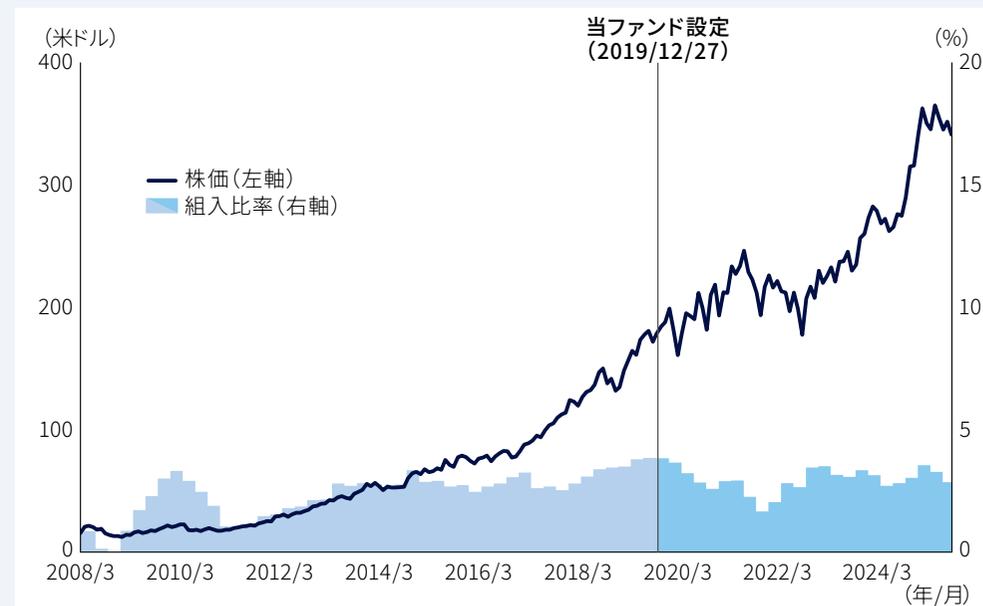
- 概要** ■ 世界有数の決済サービスを運営し、220以上の国と地域*1にクレジットカードブランド「VISA」を提供。
- 着眼点*2** ■ クレジットカードの発行や加盟店の管理は行わず、決済ネットワークやライセンスの提供に特化していることや、銀行と加盟店双方に対し自社の決済サービスへの手数料を徴収することなどから収益性の高いビジネスモデルを有する。
- 世界最大級の決済ネットワークと強力なフリー・キャッシュ・フロー創出力などにより高い競争優位性を維持。
 - 電子決済への移行という構造的な追い風を背景に、今後も長期的に安定した成長が見込まれる。

*1 2025年6月末時点、出所:同社ホームページ *2 2025年11月末時点

1株当たり利益と売上高の推移



株価と組入比率の推移



上記の一部は、当ファンドが実質的に採用する運用戦略で運用されているコンポジット、あるいは当該コンポジットを構成する代表口座・ファンドのものであり、当ファンドのものではありません。

出所: ファクトセットのデータ、各社ホームページなどをもとにティー・ロウ・プライスが作成。

【左図】期間:2022年~2027年(暦年ベース)。2025年以降はファクトセットが集計したアナリスト予想値(2025年12月17日時点)。

【右図】期間:2008年3月末(新規上場時の月末)~2025年9月末(株価は月次。組入比率は、2019年9月末までは当運用戦略の米国籍ファンド、以降は「ティー・ロウ・プライス 米国成長株式マザーファンド」の四半期ベースの数値)。

・上記は説明のために銘柄の一例をご紹介しますものです。したがって、個別銘柄・企業の推奨を目的とするものではなく、当社ファンドにおいて上記銘柄の組み入れまたは売却を示唆・保証するものではありません。

・セクターは世界産業分類基準(GICS)を使用しています。GICSは年次更新され、報告は適宜更新内容を反映します。GICSの情報は後記の「世界産業分類基準(GICS)について」をご確認ください。

・上記は過去の実績・状況であり、将来の投資成果等を示唆・保証するものではありません。

ファンドの運用状況(2025年11月末時点)

ティー・ロウ・プライス 米国成長株式ファンドの
基準価額と純資産総額の推移



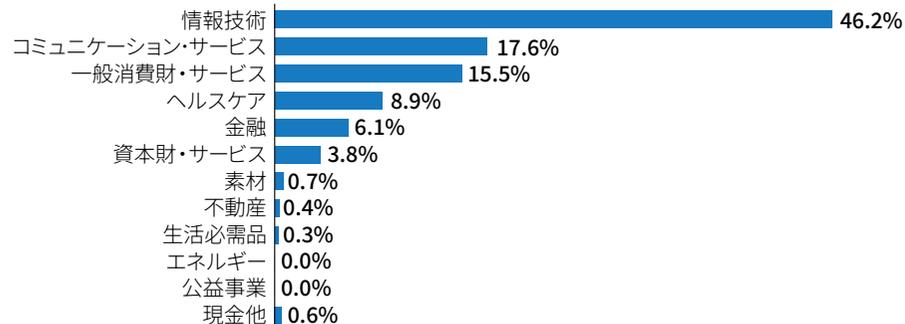
期間:2019年12月27日(設定日)～2025年11月28日

ティー・ロウ・プライス 米国成長株式ファンド
(毎月決算・予想分配金提示型)の基準価額と純資産総額の推移



期間:2025年8月18日(設定日)～2025年11月28日 *2025年11月28日時点

セクター別比率



ファンド特性値

| | |
|-----------------------|-------|
| 組入銘柄数 | 64銘柄 |
| 予想1株当たり利益成長率(3～5年、年率) | 15.7% |
| 予想株価収益率(PER)(12ヵ月後) | 33.0倍 |
| 自己資本利益率(ROE) | 39.1% |

出所:ファクトセットのデータをもとにティー・ロウ・プライスが作成。

- ・セクター別比率、特性値は「ティー・ロウ・プライス 米国成長株式マザーファンド」の情報です。構成比は対純資産総額の比率です。四捨五入しており、合計が100%にならない場合があります。
- ・基準価額は1万口当たりです。基準価額および基準価額(分配金再投資)は信託報酬控除後(「ファンドの費用」参照)のもので、基準価額(分配金再投資)は、税引前分配金を分配時に再投資したものと計算しています。分配金実績は、将来の分配金の水準を示唆・保証するものではありません。運用状況によっては、分配金額が変わる場合、または分配金が支払われない場合があります。詳しくは「分配方針」をご覧ください。なお、表示期間において「ティー・ロウ・プライス 米国成長株式ファンド」では分配金のお支払いはありません。
- ・セクターは世界産業分類基準(GICS)を使用しています。ティー・ロウ・プライスは、将来の報告についてGICSの更新があればそれに従います。GICSの情報は「留意事項」のページをご確認ください。
- ・上記は過去の実績・状況であり、将来の投資成果等を示唆・保証するものではありません。

当マザーファンドの組入上位10銘柄(2025年11月末時点)

| 順位 | 銘柄名 | 組入比率 | 国 | セクター | 概要 |
|----|--------------|------|----|----------------|--|
| 1 | アルファベット | 8.9% | 米国 | コミュニケーション・サービス | 検索エンジン大手「Google」を擁する持株会社。動画サイト「YouTube」やスマートフォン、OS「Android」等とあわせて存在感を発揮。 |
| 2 | アップル | 8.9% | 米国 | 情報技術 | スマートフォンなどのデジタル端末の設計、製造、販売に加え、決済やクラウド、広告サービスも手掛ける。強力なブランド力と経常的な収益モデルによる、収益成長ポテンシャルを評価。 |
| 3 | エヌビディア | 8.8% | 米国 | 情報技術 | 半導体の設計・開発とともに、同社製品を軸としたエコシステムを構築。特に、機械学習や自動運転など、AI関連分野で確固たる地位を築いている。 |
| 4 | マイクロソフト | 8.8% | 米国 | 情報技術 | 「Windows」や「Office」などのソフトウェア、「Surface」などのデバイスの製造、販売を行う。クラウド・コンピューティング・サービスの提供も手掛け、安定的な収益が期待される。 |
| 5 | ブロードコム | 7.5% | 米国 | 情報技術 | 半導体の設計・開発に携わり、特定用途向け集積回路(ASIC)で業界をけん引。AI向けインフラ需要の持続的な拡大を追い風に同社製品の堅調な需要が見込まれる。 |
| 6 | アマゾン・ドット・コム | 6.1% | 米国 | 一般消費財・サービス | 幅広い商品を手掛けるオンライン小売事業のほか、企業向けのクラウド・コンピューティング・サービスが持続的に成長。また、デジタル広告でのシェア拡大が期待される。 |
| 7 | メタ・プラットフォームズ | 4.6% | 米国 | コミュニケーション・サービス | 「Facebook」、「Instagram」など世界最大級のSNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)を運営。AIを活用したマネタイズ(収益化)に優位性を持つと見込まれる。 |
| 8 | イーライリリー | 4.1% | 米国 | ヘルスケア | 製薬会社。高い製品開発力を背景に、有望な市場で重要性の高い医薬品ブランドを複数有する。特に肥満症治療薬は、潜在市場規模が大きいことなどから同社業績の更なる成長が期待される。 |
| 9 | テスラ | 3.6% | 米国 | 一般消費財・サービス | 電気自動車(EV)メーカー。構造的なコスト優位性や技術力の高さ、企業文化などの強みを背景に業界を主導しつつ、蓄電や自動運転などへの事業多角化も期待される。 |
| 10 | ビザ | 2.8% | 米国 | 金融 | 世界最大級のクレジットカードブランド会社。収益性の高いビジネスモデルを有しており、長期で安定した業績成長が見込まれる。 |

・上記は「ティール・ロウ・プライス 米国成長株マザーファンド」の情報です。組入比率はすべて対純資産総額の比率です。

・上記は説明のために銘柄の一例をご紹介します。したがって、個別銘柄・企業の推奨を目的とするものではなく、当社ファンドにおいて上記銘柄の組み入れまたは売却を示唆・保証するものではありません。

・セクターは世界産業分類基準(GICS)を使用しています。GICSは年次更新され、報告は適宜更新内容を反映します。GICSの情報は後記の「世界産業分類基準(GICS)について」をご確認ください。

・上記は過去の実績・状況であり、将来の投資成果等を示唆・保証するものではありません。

ファンドの特色／投資リスク

■ ファンドの特色

- 1 | ティー・ロウ・プライス 米国成長株式マザーファンド(以下「マザーファンド」といいます。)への投資を通じて、主として米国の株式の中で、成長性が高いと判断される企業を中心に投資を行います。なお、米国以外の企業にも投資する場合があります。
- 2 | 銘柄選択に関しては、個別企業分析に基づく「ボトム・アップ・アプローチ*1」を重視した運用を行います。個別企業分析にあたっては、ティー・ロウ・プライス*2のアナリストによる独自の企業調査情報を活用します。
*1 ボトム・アップ・アプローチとは、アナリストの個別企業に対する調査や分析等に基づきその企業の投資価値を判断し、個別銘柄を選択する運用手法です。
 *2 委託会社およびその関連会社をいいます。
- 3 | 実質外貨建資産について、原則として対円で為替ヘッジを行いません。

※市場動向、資金動向、信託財産の規模等により、上記のような運用ができない場合があります。

※上記は当ファンドの主たる投資対象であるマザーファンドの特色を含みます。

■ 投資リスク

基準価額の変動要因

投資信託は預貯金と異なります。

ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動し、投資元本を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者のみなさまに帰属します。したがって、投資者のみなさまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失が生じることがあります。当ファンドが有する主なリスク(ファンドの主たる投資対象であるマザーファンドが有するリスクを含みます。)は以下の通りです。

株価変動リスク

当ファンドは、米国の株式を主要な投資対象としますので、その基準価額は、株式(米国預託証券(ADR)等を含みます。)の値動きにより、大きく変動することがあります。株価は、発行企業の業績、市場での需給関係、政治・経済・社会情勢等の影響を受けて、ときには大きく変動します。発行企業が経営不安や倒産等に陥った場合には、投資資金が回収できなくなることもあります。

為替変動リスク

当ファンドは、原則として対円で為替ヘッジを行わないため、為替変動の影響を直接受けます。したがって、為替相場が円高方向に進んだ場合は、ファンドの基準価額が下落する要因となります。また、為替相場は大きく変動する場合があります。

※基準価額の変動要因は上記に限定されるものではありません。

※詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

分配方針

<ティー・ロウ・プライス 米国成長株式ファンド(以下、「年1回決算コース」ということがあります。)>

■ 年1回の決算時(毎年11月15日。休業日の場合は翌営業日。)に、原則として以下の分配方針に基づき分配を行います。

- ・ 分配対象額の範囲は、繰越分を含めた経費控除後の配当等収益と売買益(評価益を含みます。)等の全額とします。
- ・ 分配金額は、委託会社が基準価額水準、市場動向等を勘案して決定します。なお、必ず分配を行うものではありません。
- ・ 留保益の運用については、特に制限を設けず、委託会社の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。

<ティー・ロウ・プライス 米国成長株式ファンド(毎月決算・予想分配金提示型)(以下、「毎月決算コース」ということがあります。)>

■ 毎月の決算時(毎月15日。休業日の場合は翌営業日。)に、原則として以下の分配方針に基づき分配を行います。

- ・ 分配対象額の範囲は、繰越分を含めた経費控除後の配当等収益と売買益(評価益を含みます。)等の全額とします。
- ・ 分配金額は、委託会社が基準価額水準、市場動向等を勘案して決定します。なお、必ず分配を行うものではありません。
- ・ 留保益の運用については、特に制限を設けず、委託会社の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。

■ 毎決算日の前営業日の基準価額に応じて、以下の金額の分配を行うことを目指します。

| 決算日の前営業日の基準価額 | 分配金額(1万口当たり、税引前) |
|--------------------|------------------|
| 10,500円未満 | 基準価額の水準等を勘案して決定 |
| 10,500円以上11,000円未満 | 100円 |
| 11,000円以上12,000円未満 | 110円 |
| 12,000円以上13,000円未満 | 120円 |
| 13,000円以上14,000円未満 | 130円 |
| 14,000円以上15,000円未満 | 140円 |
| ⋮ | ⋮ |

※基準価額15,000円以降も左記と同様、基準価額1,000円の上昇で10円の分配金額増加(1万口当たり、税引前)を目指します。

※毎決算日の前営業日の基準価額の水準に応じて左記の表に基づく分配金額を支払うことを原則としますが、その金額は変動するものであり、基準価額の水準によっては分配金が支払われないこともあります。したがって、将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

※基準価額が左記の表に記載された水準に一度でも到達すれば、その水準に応じた分配が次期決算以降も継続されるというものではありません。

※分配金の支払いにより純資産総額は減少することになり、基準価額が下落する要因となります。

※分配金の支払いのために、現金化またはポートフォリオ再構築を行うための追加的な取引コスト等が発生する場合や現金の保有比率が高まる場合があります。

※「収益分配金に関する留意点」もあわせてご覧ください。

※販売会社によっては、いずれかのコースのみ取扱う場合があります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

収益分配金に関する留意点

- 分配金は、預貯金の利息とは異なり投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。

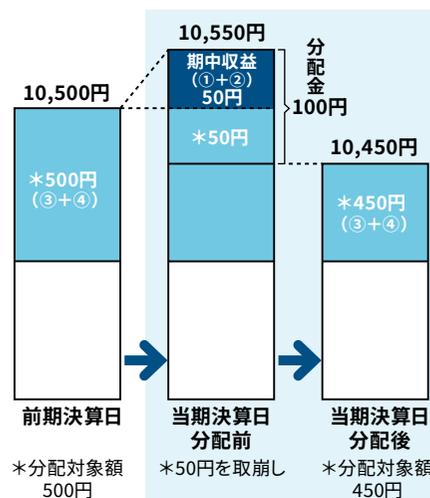
投資信託で分配金が支払われるイメージ



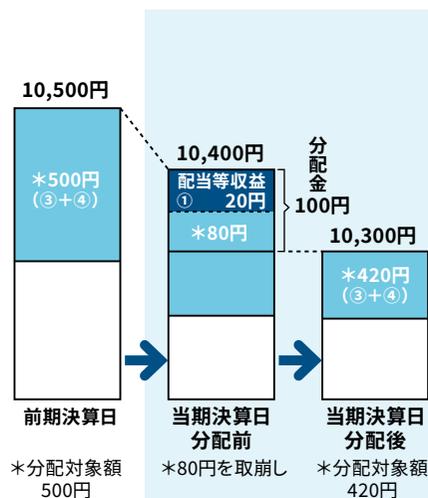
- 分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合

前期決算日から基準価額が上昇した場合



前期決算日から基準価額が下落した場合



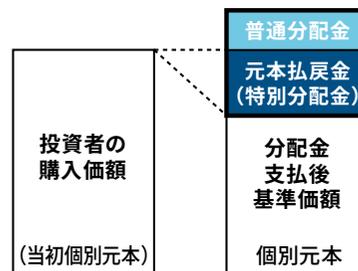
※分配対象額は、①経費控除後の配当等収益および②経費控除後の評価益を含む売買益ならびに③分配準備積立金および④収益調整金です。

分配金は、分配方針に基づき、分配対象額から支払われます。

※上記はイメージであり、実際の分配金額や基準価額を示唆するものではありませんのでご注意ください。

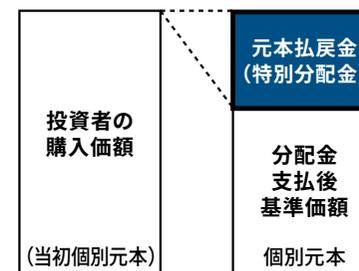
- 投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。

分配金の一部が元本の一部払戻しに相当する場合



※元本払戻金(特別分配金)は実質的に元本の一部払戻しとみなされ、その金額だけ個別元本が減少します。また、元本払戻金(特別分配金)部分は非課税扱いとなります。

分配金の全部が元本の一部払戻しに相当する場合



普通分配金：個別元本(投資者のファンドの購入価額)を上回る部分からの分配金です。
元本払戻金(特別分配金)：個別元本を下回る部分からの分配金です。分配後の投資者の個別元本は、元本払戻金(特別分配金)の額だけ減少します。

※普通分配金に対する課税については、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

お申込みメモ(みずほ銀行でお申込みの場合)

| | | | | | |
|--------|--------------------|--|-----|---------|---|
| 購入時 | 購入単位 | <p><年1回決算コース> 店舗：20万円以上1円単位 みずほダイレクト(インターネットバンキング)：1万円以上1円単位 みずほ積立投信：1千円以上1千円単位</p> <p><毎月決算コース> 店舗：20万円以上1円単位 みずほダイレクト(インターネットバンキング)：1万円以上1円単位</p> | その他 | 繰上償還 | 次のいずれかに該当する場合には、受託会社と合意の上、信託契約を解約し、当該信託を終了(繰上償還)することがあります。 <年1回決算コース> ・受益権口数が30億口を下回るようになった場合 ・信託契約を解約することが受益者のため有利であると認める場合 ・信託契約を解約することに正当な理由がある場合 <毎月決算コース> ・受益権口数が50億口を下回るようになった場合 ・信託契約を解約することが受益者のため有利であると認める場合 ・信託契約を解約することに正当な理由がある場合 |
| | 購入価額 | 購入申込受付日の翌営業日の基準価額とします。 | | 決算日 | <年1回決算コース> 毎年11月15日(休業日の場合は翌営業日) <毎月決算コース> 毎月15日(休業日の場合は翌営業日) |
| 換金時 | 換金単位 | 1口単位 | | 収益分配 | <年1回決算コース> 年1回の決算時に、分配方針に基づいて分配を行います。 <毎月決算コース> 毎月の決算時に、分配方針に基づいて分配を行います。 ※委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。 ※販売会社によっては、分配金の再投資が可能です。 |
| | 換金価額 | 換金申込受付日の翌営業日の基準価額とします。 | | 信託金の限度額 | 各ファンドについて1兆円を上限とします。 |
| | 換金代金 | 原則として、換金申込受付日から起算して5営業日目からお申込みの販売会社でお支払いします。 | | 公告 | 公告を行う場合は日本経済新聞に掲載します。 |
| 申込について | 換金制限 | ファンドの資金管理を円滑に行うため、委託会社の判断により、別途制限を設ける場合があります。 | | 運用報告書 | 年1回決算コースは毎年11月の決算時および償還時に、毎月決算コースは毎年5月、11月の決算時および償還時に、期中の運用経過などを記載した交付運用報告書を作成し、販売会社を通じて知れている受益者に対して提供・交付します。 |
| | 購入・換金申込不可日 | ニューヨーク証券取引所の休業日またはニューヨークの銀行の休業日には、お申込みの受付は行いません。 ※スイッチングのお申込みの場合も同様です。 | | スイッチング | 販売会社によっては、各ファンド間にてスイッチングが可能です。スイッチングの際には、通常の換金時と同様に税金がかかります。 ※スイッチングのお取扱いに関しては、販売会社へお問い合わせください。 |
| | 購入・換金申込受付の中止および取消し | 金融商品取引所等における取引の停止、その他やむを得ない事情等があるときは、購入・換金のお申込みの受付を中止すること、およびすでに受付けた購入・換金のお申込みの受付を取消すことがあります。 ※スイッチングのお申込みの場合も同様です。 なお、主要投資対象市場の規模・流動性等を勘案し、購入のお申込みの受付を制限することがあります。 | | 課税関係 | 課税上は株式投資信託として取扱われます。 一定の要件を満たした公募株式投資信託は、税法上、少額投資非課税制度「NISA(ニーサ)」の適用対象となります。 年1回決算コースはNISAの「成長投資枠(特定非課税管理勘定)」の対象ですが、販売会社により取扱いが異なる場合があります。 毎月決算コースはNISAの適用対象ではありませんので、ご注意ください。 詳しくは、販売会社にお問い合わせください。 配当控除の適用はありません。 |
| その他 | 信託期間 | 原則として無期限(設定日：2019年12月27日(年1回決算コース)、2025年8月18日(毎月決算コース)) | | | |

※詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。
 ※販売会社によっては、いずれかのコースのみ取扱う場合があります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

お申込みメモ(みずほ銀行でお申込みの場合)

■ ファンドの費用

| 投資者が直接的に負担する費用 | | 投資者が信託財産で間接的に負担する費用 | | | | | | | | | | | | | |
|----------------|---|--|--|-----|----|-------|------|----------------------|---------------|------|----------------------|--|------|----------------------|--------------------------|
| 購入時手数料 | <p>購入時手数料は購入金額に応じて、以下の手数料率を購入価額に乗じた額になります。</p> <p>1億円未満 …………… 3.30% (税抜3.0%) 1億円以上3億円未満 …………… 1.65% (税抜1.5%) 3億円以上 …………… 0.55% (税抜0.5%)</p> | 運用管理費用(信託報酬) | <p>ファンドの純資産総額に対し、年1.463%(税抜1.33%)の率を乗じた額が運用管理費用(信託報酬)として毎日計上され、ファンドの基準価額に反映されます。なお、年1回決算コースは毎計算期の最初の6ヵ月終了日(休業日の場合は翌営業日とします。)および毎計算期末または信託終了のとき、毎月決算コースは毎計算期末または信託終了のときにファンドから支払われます。</p> <p>信託報酬(1万口当たり)=運用期間中の基準価額×信託報酬率 <運用管理費用(信託報酬)の配分></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>支払先</th> <th>料率</th> <th>役務の内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>委託会社</td> <td>年0.715% (税抜0.65%)</td> <td>ファンド運用の指図等の対価</td> </tr> <tr> <td>販売会社</td> <td>年0.715% (税抜0.65%)</td> <td>運用報告書等各種書類の提供・送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価</td> </tr> <tr> <td>受託会社</td> <td>年0.033% (税抜0.03%)</td> <td>運用財産の管理、委託会社からの指図の実行等の対価</td> </tr> </tbody> </table> <p>※運用の指図に関する権限の委託を受けた者に対する報酬は、ファンドから委託会社が受ける運用管理費用(信託報酬)の中から支払われます。</p> | 支払先 | 料率 | 役務の内容 | 委託会社 | 年0.715% (税抜0.65%) | ファンド運用の指図等の対価 | 販売会社 | 年0.715% (税抜0.65%) | 運用報告書等各種書類の提供・送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価 | 受託会社 | 年0.033% (税抜0.03%) | 運用財産の管理、委託会社からの指図の実行等の対価 |
| 支払先 | 料率 | 役務の内容 | | | | | | | | | | | | | |
| 委託会社 | 年0.715% (税抜0.65%) | ファンド運用の指図等の対価 | | | | | | | | | | | | | |
| 販売会社 | 年0.715% (税抜0.65%) | 運用報告書等各種書類の提供・送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価 | | | | | | | | | | | | | |
| 受託会社 | 年0.033% (税抜0.03%) | 運用財産の管理、委託会社からの指図の実行等の対価 | | | | | | | | | | | | | |
| スイッチング手数料 | <p>ありません。</p> <p>※スイッチングの際には、通常の換金時と同様に税金がかかります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。</p> | その他の費用・手数料 | <p>信託事務の諸費用等</p> <p>法定書類等の作成等に要する費用(有価証券届出書、目論見書、運用報告書等の作成、印刷、交付および提出にかかる費用)、監査費用、計理業務およびこれに付随する業務にかかる費用等は、ファンドの純資産総額に対して年率0.11%(税抜0.1%)を上限とする額が毎日計上され、年1回決算コースは毎計算期の最初の6ヵ月終了日(休業日の場合は翌営業日とします。)および毎計算期末または信託終了のとき、毎月決算コースは毎計算期末または信託終了のときにファンドから支払われます。</p> <p>売買委託手数料等</p> <p>組入有価証券の売買委託手数料、外貨建資産の保管等に要する費用等が、ファンドから支払われます。</p> <p>※運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を表示することはできません。</p> | | | | | | | | | | | | |
| 信託財産留保額 | ありません。 | | | | | | | | | | | | | | |

※上記の手数料・費用等の合計額等については、投資者のみなさまがファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

※詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

※販売会社によっては、いずれかのコースのみ取扱う場合があります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

委託会社、その他関係法人

委託会社 ティー・ロウ・プライス・ジャパン株式会社

受託会社 三菱UFJ信託銀行株式会社

販売会社 株式会社みずほ銀行 他

信託財産の運用指図等を行います。

信託財産の保管・管理業務等を行います。

募集の取扱いおよび販売、投資信託説明書(目論見書)・運用報告書の交付、収益分配金の再投資、収益分配金、一部解約金および償還金の支払いに関する事務等を行います。

照会先

ティー・ロウ・プライス・ジャパン株式会社

ホームページ troweprice.co.jp

照会先 電話番号 03-6758-3840

(受付時間：営業日の午前9時～午後5時)

留意事項

投資信託および当資料に関する留意事項について

- 当資料は、ティー・ロウ・プライス・ジャパン株式会社が作成した販売用資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づき作成しておりますが、情報の正確性あるいは完全性について保証するものではありません。
- 当資料における見解等は資料作成時点のものであり、将来事前の連絡なしに変更されることがあります。また、当資料で示したデータ等は、情報提供を目的として掲載したものであり、将来の投資成果を示唆・保証するものではありません。
- 投資信託は、値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、お客さまの資産が当初の投資元本を割り込み損失が生じることがあります。
- ご購入の際は投資信託説明書(交付目論見書)をあらかじめまたは同時にお渡ししますので、必ずお受け取りのうえ、内容をよく読み、ご自身でご判断ください。
- 投資信託は、預金や保険契約ではありません。また、預金保険機構や保険契約者保護機構の保護の対象にはなりません。購入金額については、元本および利回りの保証はありません。銀行等の登録金融機関でご購入いただく投資信託は、投資者保護基金の支払対象ではありません。
- ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリング・オフ)の適用はありません。
- 著作権はティー・ロウ・プライスに帰属します。「T. ROWE PRICE」、「INVEST WITH CONFIDENCE」、「アメリカン・ロイヤルロード」、大角羊(ビッグホーン・シープ)のデザイン等は、ティー・ロウ・プライス・グループ・インクの商標です(troweprice.com/ip)。その他全ての商標は、それぞれの所有者の所有財産です。ティー・ロウ・プライスと商標所有者との承認、出資、提携を示唆するものではありません。
- 当資料はティー・ロウ・プライス・ジャパン株式会社の書面による同意のない限り他に転載することはできません。

外部評価に関する補足説明について

- *Fortune*®およびWorld's Most Admired Companies™は、*Fortune* Media IP Limitedの登録商標であり、許可を得て使用しています。出所:*Fortune*。©2025 *Fortune* Media IP Limited。著作権、知的財産権、その他一切の権利は、*Fortune* Media IP Limitedに帰属します。*Fortune*および*Fortune* Media IP Limitedは、ティー・ロウ・プライスの関連会社ではなく、ティー・ロウ・プライスの商品やサービスを推奨するものではありません。

当資料で使用している指数・データについて

- S&P500インデックスはS&P Dow Jones Indices LLCまたはその関連会社(「SPDJ」)の商品であり、これを利用するライセンスがティー・ロウ・プライスに付与されています。Standard & Poor's®およびS&P®は、Standard & Poor's Financial Services LLC(「S&P」)の登録商標で、Dow Jones®は、Dow Jones Trademark Holdings LLC(「Dow Jones」)の登録商標です。ティー・ロウ・プライスの商品は、SPDJ、Dow Jones、S&P、それらの各関連会社によってスポンサー、保証、販売、または販売促進されているものではなく、これらのいずれの関係者も、かかる商品への投資の妥当性に関するいかなる表明も行わず、S&P500インデックスのいかなる過誤、遺漏、または中断に対しても一切責任を負いません。
- ロンドン証券取引所グループおよびそのグループ事業(総称して「LSEグループ」)。著作権はLSEグループに帰属します。FTSEラッセルは、特定のLSEグループ企業の商号です。「Russell®」は関連するLSEグループ企業の商標であり、他のLSEグループ企業はライセンスを得て使用しています。FTSEラッセル・インデックスまたはデータの著作権は、インデックスまたはデータを保有する関連するLSEグループ企業に帰属します。LSEグループおよびそのライセンサーは、インデックスまたはデータの誤りや不備の責任を負わず、いずれの当事者も本書に記載のインデックスまたはデータに依拠することは禁止されます。関連するLSEグループ企業の書面による明示的同意なしにLSEグループから得たデータを再配布することは認められません。本書の内容は、LSEグループによる販売促進、出資および承認は受けておりません。
- 金融データと分析の提供はファクトセット。Copyright 2026 FactSet。すべての権利はファクトセットに帰属します。

世界産業分類基準(GICS)について

- 世界産業分類基準(「GICS」)は、モルガン・スタンレー・キャピタル・インターナショナル(「MSCI」)およびマグロウヒル・カンパニー傘下のスタンダード&プアーズ(「S&P」)が開発した独占的財産およびサービスマークであり、ティー・ロウ・プライスにライセンス供与されています。MSCI、S&PまたはGICSの作成、編集もしくはGICS分類に関与する第三者はいずれも、当該基準や分類(またはその利用から得られた結果)について明示的にも暗示的にもいかなる保証や表明もしません。また、すべての関係当事者は、当該基準や分類のいずれについても、その独創性、正確性、網羅性、商品性または特定の目的適合性について、いかなる保証からも明示的に免責されます。前述の内容を制限することなく、MSCI、S&P、その関連会社またはGICSの作成、編集もしくはGICS分類に関与する第三者はいずれの場合も、直接的、間接的、特別、懲罰的、結果的またはその他のいかなる損害(逸失利益を含む)について、その発生可能性が通知されていたとしても、いかなる責任も負いません。

T.RowePrice



ロゴマーク「大角羊」に込めた想い

大角羊(ビッグホーン・シープ)は、様々な環境下で生存可能で、非常に敏捷な動物として知られています。どのような市場環境でも強固なファンダメンタル・リサーチを基礎に、徹底したリスク管理を行うことで投資家のみなさまに長期的に安定したパフォーマンスをお届けすることを誓う弊社からのメッセージを表しています。

■ お申込み・投資信託説明書(交付目論見書)のご請求は

MIZUHO みずほ銀行

商号等：株式会社みずほ銀行
登録金融機関 関東財務局長(登金)第6号
加入協会：日本証券業協会
一般社団法人金融先物取引業協会
一般社団法人第二種金融商品取引業協会

■ 設定・運用は

 **T.RowePrice**

商号等：ティー・ロウ・プライス・ジャパン株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第3043号
加入協会：一般社団法人日本投資顧問業協会
一般社団法人投資信託協会
一般社団法人第二種金融商品取引業協会